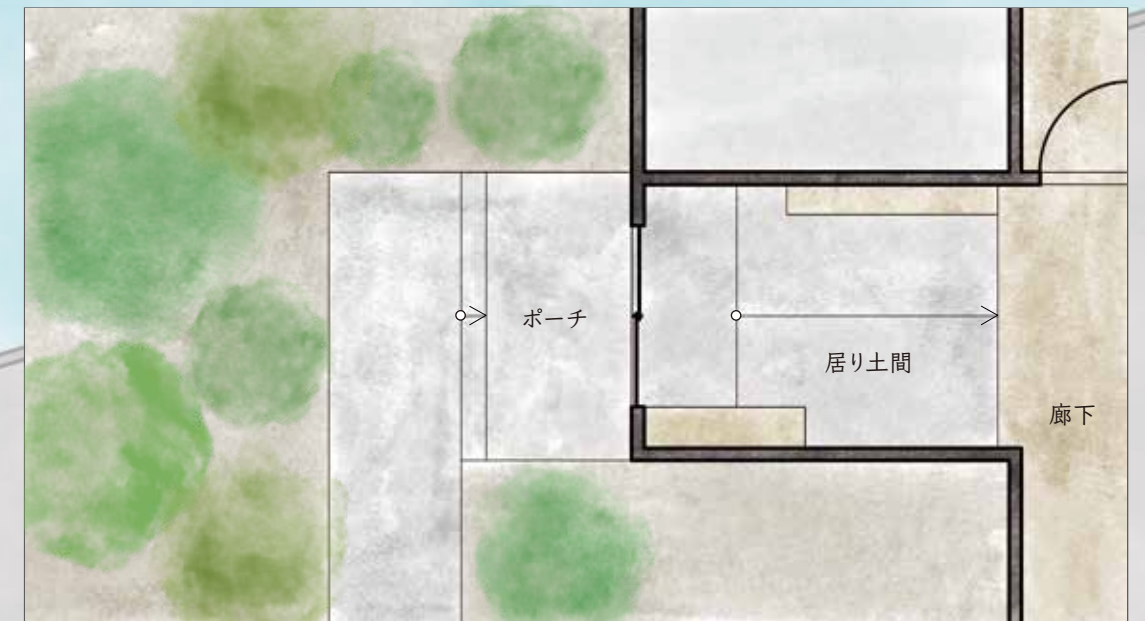


靴を脱ぐ だけでない土間



平面図 S=1/75

土間を居場所に変える

日本ならではの文化として靴を脱ぐという行為がある。それ故、「土間」という空間は日本の建築の特徴の一つだと言える。建築的な関係だけではなく、人の行為も含めて内と外を繋ぐ場所である。

現在日本でよく見られる住宅において、玄関や土間は暗く閉じられたように作られ、ただ靴を脱ぎ、置いておくだけの空間になっている。この新たな和の空間においては、玄関をよりオープンにし、土間の上がりを経差ではなく傾斜とすることで、内と外の境界線とするのではなく緩やかに繋ぐ空間とする。靴を脱ぐための場所を新たな内と外を繋ぐ心地よい空間へと変化させる。また、傾斜のどこで靴を脱ぐのか、その場所を定めないことで建物ごとに多様な使い方が生まれる。

玄関をオープンにし、明るい空間にする



玄関から外の景色を楽しむ

居り土間

座布団を敷いてくつろぐ

居り土間(おりどま)

玄関の上りの段差部分を傾斜とした、人が居室のように過ごすことができる土間と床の間の空間。

断面図 S=1/20